

(別紙1)

実績報告書

実施期間	(開始日) 平成 29 年 5 月 1 日 ~ (完了日) 平成 30 年 2 月 28 日
実施場所	山口県立宇部工業高校、ほか
実施内容	<p>本事業は、通学や課外活動で自転車利用の機会が多い高校生を対象に、ワークショップを開催し、通学路の危険箇所を話し合い、自転車ネットワークの方策を話し合うこと、駅での駐輪環境改善のアイデアを募ることで、より良い宇部の交通未来に役立てることを目的とした。</p> <p>(1) 自転車交通安全講座：2017年7月12日 山口県立宇部工業高校にて、全校生徒を対象に実施。 内容：自転車事故の原因、自転車は左側通行ルールの意義と走行空間整備の動向について。積極的な質問も多く、生徒の理解が深まった。</p> <p>(2) 自転車通学路点検ワークショップ： 2018年2月9日(金) 15:30~18:00 宇部工業高校にて、参加者は生徒会5名、教諭3名、宇部市道路河川管理課から職員2名、うべこまちスタッフ3名、大学生スタッフ1名 ○目的： 普段多くの生徒が自転車通学に使っている道路の通行方法を見直し、危険箇所とその原因を考察する。道路の整備方法と交通ルール・マナー啓発について主体的に話し合い、将来の改善に役立てる。 ○走行ルート およそ6km：工業高校～宇部新川駅～松島町商店街～自転車レーン～琴芝通り～工業高校戻り ・交差点の通行方法注意： 車道走行時は車の信号を見て通行。右折時は二段階右折。 歩道通行時は自転車・歩行者の信号を見て通行。横断歩道を通る時、歩行者がいれば自転車を降りる。 ・生徒の意見：自転車レーンのある区間は、レーンの幅があって、車道を走りやすく、スピードも出せた。自転車に乗るとき、漫然とぼやっと乗るのでなく、「自転車を運転している」と意識して乗ることが大切だと気づいた。商店街では路上駐車を自転車で抜く時、死角があり、歩行者が出てきたら危ないと感じた。</p>
参加者数等	(1) 自転車交通安全講座：参加者数 宇部工業高校生徒 480人、スタッフ 4人 (2) 自転車通学路走行ワークショップ： 参加者数 10人、スタッフ 4人
得られた成果・効果	<p>自転車利用の一番の当事者であり、将来の交通を担う高校生の視点から、通行空間の危険箇所、左側通行などルールについて話し合うことで、自転車環境改善の効果が期待できた。</p> <p>自転車レーンと車道左側の自転車通行方法について、グループで走行することで、その意義と注意点が高校生によく理解された。宇部新川駅及び琴芝駅からの通学ルート及び、法定外の自転車レーン</p>

	<p>(自転車誘導帯)である、市道神原草江線 900m を含め、ルートを試走し、その危険箇所、注意点、改善要望をまとめることができた。</p>
<p>課題・反省点</p>	<p>高校生の自転車通学路ワークショップの実施について、宇部工業高校と協議してきたが、生徒会執行部の発足を待ったため、寒冷時期の 2 月実施となり、天候に心配があった。幸い、晴れの暖かい日となったが、秋頃の実施が望ましい。</p> <p>通学路自転車走行の前に、ブレーキ等、自転車の整備状況を点検チェックする時間を設けるとよかった。自転車商組合の協力を得て、自転車整備士の派遣を要請するとよかった。</p>
<p>今後の活動計画・事業展望等</p>	<p>① 学校側のスケジュールが調整できず今回の報告には間に合わなかったが 3 月 14 日にワークショップの報告と自転車講演会を宇部工業高校にて実施する。生徒会執行部の体験学習を広く生徒に広め、より多くの生徒が車道走行を体験し、その利点や注意点を全生徒が学ぶことが期待できる。</p> <p>② 歩道のない路側帯だけの生活道路が宇部新川駅や琴芝駅からの自転車通学路になっており、逆走も絶えないことから、自転車通行位置を示すよう左側に自転車ピクトグラムと矢羽根を入れる整備を道路管理者に提案する活動を続け、広めていきたい。</p> <p>③ 宇部工業高校での取り組みを発展させ、自転車利用の多い文教地区での自転車走行空間の改善とルール啓発にとりくみたい。</p>

※事業実施状況が確認できる写真を添付してください。